

健康さっぽろ21（第二次）中間評価結果 概要

資料2 平成30年3月  
中間評価委員会

【栄養・食生活】

%は小数点第2位を四捨五入

目標値に向かって推移

変化なし（±1.0未満）

目標値から遠ざかっている

<現状>  
 ・「20～60歳代男性の肥満者の割合」は2.1ポイント上昇し、「20歳代女性のやせの割合」は10.1ポイント上昇している。「定期的に体重を量る人の割合」は7.5ポイント低下している。  
 ・「食塩の1日あたりの平均摂取量」はわずかに増加し「野菜の1日あたりの平均摂取量」はやや減少している。  
 ・「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をする人の割合」は14.3ポイント低下している。  
 ・「外食料理等栄養成分表示を参考にする(利用している)人の割合」は、前回調査より16.7ポイント上昇している。  
 ・「毎日朝食をとる小学5年生」は前回調査より2.8ポイント、「毎日朝食をとる中・高校生の割合」7.6ポイント上昇しており、青少年の食習慣が改善している。  
 <課題>  
 ・20～60歳代男性の肥満の人の割合、20歳代女性のやせの割合が増えていることから、適正体重について認識維持・改善する人を増やす啓発を行う必要がある。  
 ・生活習慣病予防の要因である食塩摂取量、野菜摂取量がやや悪化していたことから、引き続き減塩習慣と野菜摂取量強化、併せて主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をする人の割合を増やす啓発を進める必要がある。

項目	指標	計画策定時の値	中間評価時の値	目標	増減 (現況値－ 策定時の 値)	計画策定時の値の出典	中間評価時の値の出典	全 国						
								計画策定時の値	年次	中間評価時の値	年次	目標	年次	
適正体重を維持している人の増加	20～60歳代男性の肥満者の割合	25.3%	27.4%	23%	2.1	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	31.2%	22	31.6%	27	28.0%	34	
	40～60歳代女性の肥満者の割合	16.3%	15.6%	14%	-0.7	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	22.2%	22	20.5%	27	19.0%	34	
	20歳代女性のやせの人の割合	20.2%	30.3%	15%	10.1	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	29.0%	22	22.3%	27	20.0%	34	
	定期的に体重を量る人の割合	66.6%	59.1%	73%	-7.5	平成25年度第1回市民アンケート	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	—	—	—	
適切な量と質の食事をとる人の増加	食塩の1日あたり平均摂取量	9.5g	9.8g	8g	0.3	平成23年札幌市健康・栄養調査	平成28年札幌市健康・栄養調査	10.6g	22	10.0g	27	8g	34	
	野菜の1日あたり平均摂取量	293g	288g	350g	-5.0	平成23年札幌市健康・栄養調査	平成28年札幌市健康・栄養調査	282g	22	294g	27	350g	34	
	果物の1日あたり摂取量が100g未満の人の割合	53.1%	66.5%	30%	13.4	平成23年札幌市健康・栄養調査	平成28年札幌市健康・栄養調査	61.4%	22	57.2%	27	30.0%	34	
	主食、主菜、副菜を組み合わせた食事をする人の割合	53.0%	38.7%	62%	-14.3	平成25年度第1回市民アンケート※20歳以上	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	68.1%	23	57.7%	27	80.0%	34	
	外食料理栄養成分表示などを参考にする人の割合	37.1%	53.8%	80%	16.7	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	—	—	—	
健康な生活習慣（栄養・食生活）を身に付けている青少年の増加	毎日3回の食事をしている幼児の割合	現状値なし	97.0%	100%	—	今後調査	平成28年札幌市乳幼児健康診査(3歳児健診)	—	—	—	—	—	—	
	毎日朝食をとる小学5年生の割合	84.6%	87.4%	100%	2.8	平成23年札幌市の児童生徒の実態に関する基礎調査	平成28年度札幌市の児童・生徒の健康と食生活に関する調査(札幌市学校給食栄養士会)	89.4%	22	89.5%	26	100%	34	
	毎日朝食をとる中・高生の割合	76.5%	84.1%	100%	7.6	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	—	—	—	
	毎日朝食をとる20歳代男性の割合	39.5%	40.6%	70%	1.1	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	—	—	—	
	朝食を誰かと一緒にとる子どもの割合	小学5年生	79.7%	78.7%	90%	-1.0	平成23年札幌市の児童生徒の実態に関する基礎調査	平成26年札幌市の児童生徒の実態に関する基礎調査	15.3%	22	11.3%	26	減らす	34
		中学2年生	65.3%	64.4%		-0.9			33.7%	22	31.9%	26	減らす	34
適正体重の子供の増加	小学5年生の中等度・高度肥満傾向児の割合	男子	6.8%	6.3%	減らす	平成24年学校保健統計調査	平成28年学校保健統計調査	4.6%	23	4.8%	27	減らす	26	
		女子	3.9%	3.9%				0.0	3.4%	23	3.2%	27	減らす	26
低栄養傾向(BMI20以下)にある高齢者の減少	低栄養傾向(BMI20)以下にある70歳代の割合	17.2%	15.6%	17%	-1.6	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	—	—	—	

【身体活動・運動】

%は小数点第2位を四捨五入

目標値に向かって推移

変化なし（±1.0未満）

目標値から遠ざかっている

<現状>

- ・運動習慣のある人の割合は男性で増加、女性は変化なく、意識的に運動している15歳以上の割合は男女ともに増加している。
- ・ロコモティブシンドロームの周知度は全国値と比べて低いが、身近な問題となる60～70代では約50%と高い。

<課題>

- ・運動に習慣的に取り組むことにより、生活習慣病の発症リスクを低下させることができるため、引き続き運動習慣の確立について働く世代への啓発が必要である。
- ・ロコモティブシンドロームについては、早期予防の重要性について、幅広い世代へのさらなる周知が必要である。

項目	指標		計画策定時の値	中間評価時の値	目標	増減 (現況値-策 定時の値)	計画策定時の値の出典	中間評価時の値の出典	全 国						
									計画策定時の値	年次	中間評価時の値	年次	目標	年次	
運動に取り組む人の増加	運動習慣のある人の割合	男性	28.1%	34.4%	38%	6.3	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	34.8%	22	35.1%	28	20～64歳 65歳以上	36% 58%	34
		女性	28.4%	28.4%	38%	0.0	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	28.5%	22	27.4%	28	20～64歳 65歳以上	33% 48%	34
	意識的に運動している15歳以上の人の割合	男性	48.7%	59.5%	55%	10.8	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	—	—	—	—
		女性	47.7%	51.1%	53%	3.4	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	—	—	—	—
日常生活における歩数の増加	15歳以上の人の1日あたりの歩数	男性	7,894歩	確認中	9,000歩		平成23年国民健康・栄養調査札幌市分	平成28年国民健康・栄養調査札幌市分	確認中		確認中		確認中		
		女性	6,472歩	確認中	8,000歩				確認中		確認中		確認中		
運動習慣のある子どもの増加	運動やスポーツを習慣的にしている小学5年生の割合 (ほとんど毎日運動やスポーツをする小学5年生の割合)		48.8%	確認中	54%		平成24年度札幌市児童生徒の体力運動能力調査	平成28年度研究開発事業「子どもの体力向上」	確認中		確認中		確認中		
外出に積極的な60歳以上の人の増加	外出に積極的な60歳以上の人の割合	男性	62.1%	68.1%	70%	6.0	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	—	—	—	—
		女性	71.0%	70.6%	78%	-0.4	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	—	—	—	—
高齢者の日常生活における歩数の増加	70歳以上の人の1日あたりの歩数	男性	4,634歩	確認中	6,000歩		平成23年国民健康・栄養調査札幌市分	平成28年国民健康・栄養調査札幌市分	確認中		確認中		確認中		
		女性	4,799歩	確認中	6,000歩				確認中		確認中		確認中		
ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を知っている人の増加	ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を知っている人の割合	現状値なし		38.0%	80%	—	今後調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	17.3%	24	47.3%	28	80.0%	34	

【休養】

%は小数点第2位を四捨五入

目標値に向かって推移

変化なし（±1.0未満）

目標値から遠ざかっている

<現状>

- ・睡眠により疲労がとれない人の割合は増加しており、特に40～50代において高く、睡眠時間も他の年代に比べ短い傾向にある。
- ・ストレスを感じている人の割合は増加しており、男性に比べ女性で割合が高く、20～40代では80%以上がストレスを感じている。
- ・悩みを相談する人がいない人の割合は減少しており、身近な家族への相談やインターネットを通じた相談が増えている。

<課題>

- ・疲労やストレスへの対処方法として相談先を持つ人は増えているが、今後も対処方法の普及啓発が課題である。

項目	指標	計画策定時の値	中間評価時の値	目標	増減 (現況値－策定時の値)	計画策定時の値の出典	中間評価時の値の出典	全 国					
								計画策定時の値	年次	中間評価時の値	年次	目標	年次
睡眠による休養を十分に取れていない人の減少	睡眠により疲労がとれない人の割合	23.3%	28.6%	16%	5.3	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	18.4%	23	20.0%	26	15.0%	32
ストレスを感じている人の減少	ストレスを感じている人の割合	69.0%	71.2%	60%	2.2	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	—	—	—
悩みを相談する人がいない人の減少	悩みを相談する人がいない人の割合	6.2%	4.6%	4.4%	-1.6	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	—	—	—

【飲酒】

%は小数点第2位を四捨五入

目標値に向かって推移

変化なし(±1.0未満)

目標値から遠ざかっている

- <現状>
- ・成人の多量飲酒者の割合は、選択肢の追加により増加しているため、今後の推移を評価するが全国値と比べ低い状況である。多量飲酒者については、男性では50～60代、女性では20～30代から増加傾向にあり、「現在の飲酒量が適当なので、このままでよいと思っている」人が全体の約半数を占めている。
  - ・妊婦、未成年の飲酒の割合は減少しているが、妊婦の飲酒の割合は全国値と比べ高い。
- <課題>
- ・多量飲酒については、ハイリスク者への適正飲酒の啓発が重要である。
  - ・妊婦や未成年の飲酒が、心身の健康に及ぼす悪影響について、引き続き正しい知識の普及啓発が必要である。

項目	指標	計画策定時の値	中間評価時の値	目標	増減 (現況値－策定時の値)	計画策定時の値の出典	中間評価時の値の出典	全 国						
								計画策定時の値	年次	中間評価時の値	年次	目標	年次	
多量飲酒者の減少	成人の多量飲酒者の割合	男性	4.1%	5.1%	3.4%	1.0	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	15.3%	22	13.9%	27	13.0%	34
		女性	1.2%	2.1%	1%	0.9			7.5%	22	8.1%	27	6.4%	34
未成年者の飲酒をなくす	未成年者の飲酒の割合	8.3%	3.8%	0%	-4.5	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	中1 男子10.5% 中1 女子11.7% 高3 男子21.7% 高3 女子19.9%	22	中1 男子7.2% 中1 女子5.2% 高3 男子13.7% 高3 女子10.9%	26	0%	34	
妊婦の飲酒をなくす	妊婦の飲酒の割合	17.1%	6.7%	0%	-10.4	平成24年母子保健に関する市民意識調査	平成29年母子保健に関する市民意識調査	8.7%	22	4.3%	25	0%	26	

<現状>

- ・成人の喫煙率は低下しているが、全国値と比較すると女性が高いことが特徴的である。特に50代の喫煙率が高く、全体として禁煙意向のある人の割合は減少している。禁煙のきっかけについては、「健康に影響があると学んだから」が最も高い割合であった。
- ・妊娠中、育児期間に受動喫煙に配慮する人の割合は増加しているが、受動喫煙を有する機会として「家庭」が全国値と比べて高い。その他「飲食店」「医療機関」が高く、「飲食店」に関しては、月1回程度との回答が最も多いことが特徴的である。
- ・COPDの周知度は全国値と比べて高く、男性に比べ女性で高い傾向である。
- ・未成年者、妊婦の喫煙率は低下している。

<課題>

- ・働く世代を対象に、喫煙による健康影響について啓発を継続することにより、禁煙への動機づけを推進する必要がある。
- ・日常生活において過ごす時間が長く、受動喫煙にさらされやすいとされる「家庭」「職場」への普及啓発が重要である。また妊婦や子どもなど受動喫煙に配慮が必要とされる者も利用する機会が多い「医療機関」「飲食店」「屋外(通学路、公園など)」についても、引き続き、普及啓発が必要である。
- ・COPDは、禁煙により予防が可能である疾患であることから、継続した普及啓発が必要である。
- ・未成年者、妊婦の喫煙は、心身への健康影響が大きいことから、継続した普及啓発が重要である。

項目	指標	計画策定時の値	中間評価時の値	目標	増減 (現況値-策定時の値)	計画策定時の値の出典	中間評価時の値の出典	全 国						
								計画策定時の値	年次	中間評価時の値	年次	目標	年次	
喫煙率の低下	成人の喫煙率	成人	20.5%	17.4%	10%	-3.2	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	19.5%	22	18.3%	28	12.0%	34
		男性	30.6%	25.2%	15.5%	-5.4			32.2%	22	30.2%	28	-	-
		女性	13.1%	11.9%	6.3%	-1.2			8.4%	22	8.2%	28	-	-
受動喫煙の機会を有する人の減少	受動喫煙の機会を有する人の割合	家庭		19.4%	3%	-	今後調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	10.7%	22	8.3%	27	3.0%	34
		職場		30.1%	受動喫煙のない職場の実現	-			64.0%	23	69.4%	27	受動喫煙のない職場の実現	32
		飲食店	現状値なし	58.5%	15%	-			50.1%	22	41.4%	27	15.0%	34
		行政機関		5.3%	0%	-			16.9%	20	6.0%	27	0%	34
		医療機関		5.2%	0%	-			13.3%	20	3.5%	27	0%	34
COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度の向上	COPD(慢性閉塞性肺疾患)を知っている人の割合	現状値なし	40.3%	80%	-	今後調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	25.0%	23	25.0%	28	80.0%	34	
未成年者の喫煙をなくす	未成年者の喫煙率	1.7%	1.0%	0%	-0.7	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	中1 男子1.6% 中1 女子0.9% 高3 男子8.6% 高3 女子3.8%	22	中1 男子1.0% 中1 女子0.3% 高3 男子4.6% 高3 女子1.5%	26	0%	34	
妊婦の喫煙をなくす	妊婦の喫煙率	8.4%	3.4%	0%	-5.0	平成24年母子保健に関する市民意識調査	平成29年母子保健に関する市民意識調査	5.0%	22	3.8%	25	0%	26	
妊婦の受動喫煙をなくす	妊婦の受動喫煙に配慮する人の割合	(策定時) 33.3% 68.5%	93.4%	100%	24.9	平成24年母子保健に関する市民意識調査	平成29年母子保健に関する市民意識調査	-	-	-	-	-	-	
子どもの受動喫煙をなくす	育児期間に受動喫煙に配慮する人の割合	(策定時) 34% 76.4%	95.2%	100%	18.8	平成24年母子保健に関する市民意識調査	平成29年母子保健に関する市民意識調査	-	-	-	-	-	-	

【歯・口腔の健康】

%は小数点第2位を四捨五入

目標値に向かって推移

変化なし（±1.0未満）

目標値から遠ざかっている

<現状>

- ・むし歯のない3歳児は80.1%から85.4%と5ポイント上昇
- ・むし歯のない12歳児は47.0%から69.9%と大きく上昇
- ・40歳、60歳の歯周炎を有する人の割合が両年齢とも目標値から遠ざかっている
- ・新規項目の70歳代で咀嚼良好者は66.3%

<課題>

- ・1歳6か月児歯科健康診査の結果から、むし歯になる恐れのある児の割合が横ばい傾向であることから、むし歯予防・歯周病予防対策を含む、歯科保健対策のさらなる推進が必要である。

項目	指標	計画策定時の値	中間評価時の値	目標	増減 (現況値-策 定時の値)	計画策定時の値の出典	中間評価時の値の出典	全 国					
								計画策定時の値	年次	中間評価時の値	年次	目標	年次
むし歯のない3歳児を増やす	むし歯のない3歳児の割合	80.1%	85.4%	90%	5.3	平成23年3歳児歯科健康診査結果	平成28年3歳児歯科健康診査結果	77.1%	21	—	—	90.0%	35
むし歯のない12歳児を増やす	むし歯のない12歳児の割合	47.0%	69.9%	65%	22.9	平成24年度学校保健統計調査	平成28年度学校保健統計調査	54.6%	23	—	—	65.0%	34
40歳で歯周炎を有する人の減少	40歳で歯周炎を有する人の割合	44.6%	48.4%	37%	3.8	平成24年度歯周疾患検診	平成28年度歯周疾患検診	37.3%	17	28.0%	23	25.0%	34
60歳で歯周炎を有する人の減少	60歳で歯周炎を有する人の割合	56.0%	60.6%	45%	4.6	平成24年度歯周疾患検診	平成28年度歯周疾患検診	54.7%	17	51.6%	23	45.0%	34
60歳で24本以上歯を有する人の増加	60歳で24本以上歯を有する人の割合	62.5%	91.3%	70%	28.8	平成24年度歯周疾患検診	平成28年度歯周疾患検診	60.2%	17	65.8%	23	70.0%	34
70歳代で咀嚼良好者の増加	70歳代で咀嚼良好者の割合	現状値なし	66.3%	75%	—	今後調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	—	—	—

<現状>

- ・がん検診受診率は、増加傾向にあり、男性は目標を達成している。一方、女性はいづれも目標を達成しておらず、特に乳がんは減少している。
- ・特定健診実施率、特定保健指導実施率は、増加しているが、全国値を下回っている。
- ・かかりつけ医を決めている市民の割合は増加しているが、かかりつけ小児科医がいる子どもの割合は減少しており、小児科の救急医療機関を知っている人の割合は横ばい傾向である。
- ・麻しん・風しん混合ワクチンの第Ⅱ期予防接種率は、減少している。
- ・HIV感染者届出数のうち、発病してからの届出数の割合は、増加している。
- ・インフルエンザ予防接種を受けた65歳以上の人の割合は、減少している。

<課題>

- ・女性のがん検診受診率向上に取り組む必要がある。
- ・特定健診実施率、特定保健指導実施率の向上に引き続き取り組む必要がある。
- ・かかりつけ医を持つことは、子どもの健やかな成長において重要であることから、引き続き普及啓発に取り組む必要がある。
- ・麻しん・風しん混合ワクチンの第Ⅱ期の接種漏れを防ぐため、接種率向上に向け市民周知の強化に引き続き取り組む必要がある。
- ・HIV感染者の早期発見のため、エイズ検査受検者数の増加に向け、受検しやすい検査体制づくりに取り組む必要がある。
- ・インフルエンザ予防接種を受けた65歳以上の人の割合の向上に向け、市民周知に引き続き取り組む必要がある。

項目	指標		計画策定時の値	中間評価時の値	目標	増減 (現況値－策定時の値)	計画策定時の値の出典	中間評価時の値の出典	全 国						
									計画策定時の値	年次	中間評価時の値	年次	目標	年次	
がん検診受診率の向上	がん検診受診率	胃がん	男性	38.4%	48.3%	当面は40%	9.9	平成22年厚生労働省国民生活基礎調査（札幌市分）	平成28年厚生労働省国民生活基礎調査（札幌市分）	36.6%	22	46.4%	28	40.0%	28
			女性	27.4%	30.6%		3.2			28.3%	22	35.6%	28	40.0%	28
		肺がん	男性	27.2%	46.2%		19.0			26.4%	22	51.0%	28	40.0%	28
			女性	17.8%	31.7%		13.9			23.0%	22	41.7%	28	40.0%	28
		大腸がん	男性	30.5%	45.7%		15.2			28.1%	22	44.5%	28	40.0%	28
			女性	23.9%	31.5%		7.6			23.9%	22	38.5%	28	40.0%	28
		子宮がん	女性	41.5%	43.0%		1.5			37.7%	22	42.3%	28	50.0%	28
		乳がん	女性	42.7%	41.4%		-1.3			50%	39.1%	22	44.9%	28	50.0%
特定健康診査実施率、特定保健指導実施率の向上	特定健康診査実施率		17.6%	20.3%	35% (平成29年度)	2.7	平成24年度法定報告値：札幌市国民健康保険	平成28年度法定報告値：札幌市国民健康保険	-	-	-	-	-	-	
	特定保健指導実施率		7.4%	9.1%	20% (平成29年度)	1.7			-	-	-	-	-	-	
かかりつけ小児科医がいる子どもの増加	かかりつけ小児科医がいる子どもの割合		93.2%	90.8%	100%	-2.4	平成24年母子保健に関する市民意識調査	平成29年母子保健に関する市民意識調査	-	-	-	-	-	-	
かかりつけ医を決めている市民の増加	かかりつけ医を決めている市民の割合		51.4%	61.6%	70%	10.2	平成20年度札幌市の医療に関する意識調査	平成28年度第1回市民意識調査	-	-	-	-	-	-	
小児科の救急医療機関を知っている人の増加	小児科の救急医療機関を知っている人の割合		89.9%	90.6%	100%	0.7	平成24年母子保健に関する市民意識調査	平成29年母子保健に関する市民意識調査	-	-	-	-	-	-	
予防接種率の向上	麻しん・風しん混合（MR）ワクチンの第Ⅱ期予防接種率		92.4%	90.5%	95%	-1.9	平成23年度実績	平成28年度実績	-	-	-	-	-	-	
HIV感染者届出数のうち、発病数の減少	HIV感染者届出数のうち、発病してからの届出数の割合		37.5%	51.9%	30.9%	14.4	平成23年度実績	平成28年度実績	-	-	-	-	-	-	
インフルエンザ予防接種を受ける65歳以上の人の増加	インフルエンザ予防接種を受けた65歳以上の人の割合		49.6%	47.4%	51.1%	-2.2	平成23年度実績	平成28年度実績	-	-	-	-	-	-	

【母子保健】

<現状>

- ・ 早期に妊娠届出を行っている妊婦が増加している。また、事故防止工夫をしている家庭が増加し、乳幼児揺さぶられ症候群を知っている人の割合は全国値よりも高い。
- ・ 子どもの年齢が高くなるにつれて、子どもを虐待していると思うことがある親の割合や、こころのゆとりの少なさ、子育ての心配事の多さについては増加している。

<課題>

- ・ 妊娠期から子育て期における切れ目のない支援において、特に妊娠期の支援の充実を図る。
- ・ 幼稚園や保育園等の関係機関との連携を図りながら支援をしていく必要がある。

【思春期保健】

<現状>

- ・ 性感染症自体の知識はあるが十分に理解しているとは言えない現状がある。

<課題>

- ・ 若者の望まない妊娠や性感染症の予防については、若者が正しい知識を持ち行動することができるよう、学校や医療機関との更なる連携の強化が必要である。

項目	指標	計画策定時の値	中間評価時の値	目標	増減 (現況値-策定時の値)	計画策定時の値の出典	中間評価時の値の出典	全 国					
								計画策定時の値	年次	中間評価時の値	年次	目標	年次
未受診妊婦の減少	妊娠届出11週以下の率	93.3%	95.8%	100%	2.5	平成24年札幌市衛生年報 (平成23年統計)	平成29年札幌市衛生年報 (平成28年統計)	90.8%	24	92.2%	27	-	-
	妊婦一般健康診査の受診率(1回目)	98.1%	97.3%	100%	-0.8	平成24年度妊婦一般健康診査 支払い実績(平成24年札幌市 衛生年報掲載予定)及び母子保健 統計	平成28年度妊婦一般健康診査 支払い実績及び母子保健統計	-	-	-	-	-	-
安心して育児ができる 母親の増加	子育てに自信が持てない母親の割合	25.8%	8.8%	19%	-17.0	平成25年6月「親と子の健康度 調査アンケート」成育疾患克服等 次世代育成基盤研究事業	平成29年母子保健に関する 市民意識調査	3.4か月健診 19.3%	25	-	-	-	-
	父親の育児参加に満足する母親の割合	27.0%	26.9%	30%	-0.1	平成24年母子保健に関する 市民意識調査		-		-	-	-	-
	産後うつ病のリスクのある産婦の割合	8.8%	9.3%	7.7%	0.5	平成24年11月～平成25年3月 EPDS実施結果	平成28年度EPDS実施結果	8.4%	25	-	-	-	-
乳児のSIDS(乳幼児突然死症候群)による 死亡率の減少	乳児のSIDS(乳幼児突然死症候群)による 死亡率(出生10万対)	62.1%	49.9%	減らす	-12.2	平成24年札幌市衛生年報 (平成23年統計)	平成29年札幌市衛生年報 (平成28年統計)	13.9%	24	11.2%	28	-	-



項目	指標	計画策定時の値	中間評価時の値	目標	増減 (現況値-策 定時の値)	計画策定時の値の出典	中間評価時の値の出典	全 国						
								計画策定時の値	年次	中間評価時の値	年次	目標	年次	
不慮の事故による乳 幼児死亡の減少	心肺蘇生法を知っている親の割合	34.8%	29.7%	100%	-5.1	平成24年母子保健に関する 市民意識調査	平成29年母子保健に関する 市民意識調査	-	-	-	-	-	-	
	事故防止の工夫をしている家庭の割合	29.1%	4か月児：27.6% 10か月児：42.3% 1歳6か月児：36.0% 3歳児：20.1% 全体：31.4%	100%	2.3			38.2%（参考）	25	-	-	-	-	
低出生体重児の割合 の減少	全出生数中の低出生体重児の割合	9.6%	9.4%	減らす	-0.2	平成24年札幌市衛生年報 (平成23年統計)	平成29年札幌市衛生年報 (平成28年統計)	9.6%	22	9.4%	28	減らす	26	
児童虐待の予防	乳幼児揺さぶられ症候群の危険について知っ ている乳児を育てる親の割合	現状値なし	94.7%	100%	-	今後調査	平成29年母子保健に関する 市民意識調査	94.3%	26	-	-	100.0%	-	
	虐待していると思うことがある親 の割合	5.8%	9.0%	4.7%	3.2	平成24年母子保健に関する 市民意識調査	平成29年母子保健に関する 市民意識調査	調査方法の変更に伴い中間評価時に改めてベースライン設定する。						
		3から4か月	3.2%		3.8%			0.6	4か月	-	-	-	-	-
		10か月	2.8%		5.7%			2.9	10か月	-	-	-	-	-
		1歳6か月	6.8%		11.3%			4.5	1歳6か月	-	-	-	-	-
		3歳	10.8%		16.0%			5.2	3歳	-	-	-	-	-
児童相談所の虐待受理件数	435件	1798件	減らす	1363	札幌市児童相談所平成24年 年度統計	札幌市児童相談所平成28年 年度統計	-	-	-	-	-	-		
10歳代の望まない妊 娠の減少	10歳代の人工妊娠中絶実施率（人口千対）	12.0%	9.2%	10.3%	-2.8	平成24年札幌市衛生年報 (平成23年統計)	平成29年札幌市衛生年報 (平成28年統計)	7.1%	23	5.0%	28	6.0%	-	
	避妊法を正確に知っている人の割合	34.6%	35.0%	40.0%	0.4	平成24年思春期に関する市 民意識調査	平成29年10代の健康に関す る市民意識調査	17.9%	16	-	-	-	-	
10歳代の性感染症罹 患率の減少	10歳代の性器クラミジア感染症の定点医療機関 における1か月の患者数	1.02	0.87	0.82	-0.2	平成24年感染症発生動向調 査	平成29年感染症発生動向調 査	2.92（参考）	24	-	-	減少	-	
	性行動と性感染症の関連について正しい知識を 持つ人の割合（16～19歳）	現状値なし	41.7%	現状値に基づき 算出	-	今後調査	平成29年10代の健康に関す る市民意識調査	-	-	-	-	-	-	
薬物への正しい知識 を持つ人の割合の増 加	薬物乱用の有害性について正しい知識を持つ人 の割合（16～19歳）	現状値なし	93.7%	100.0%	-	今後調査	平成29年10代の健康に関す る市民意識調査	-	-	-	-	-	-	

【全基本要素の取組結果に対する総合的な成果指標】

%は小数点第2位を四捨五入

目標値に向かって推移

変化なし（±1.0未満）

目標値から遠ざかっている

- <現状>
- ・過去1年間に検診で高血圧症と指摘を受けた人の割合は男女ともに低下している。脂質異常と指摘を受けた人の割合は、男性は低下しているが、全年代で最も高い傾向にある。糖尿病と指摘を受けた男性の割合は増加しており、60～70代で高い傾向にある。
  - ・指摘を受けた人のうち、医療機関を受診するように勧められたが、受診しなかった割合は、20～50代において高い傾向にある。
- <課題>
- ・生活習慣病の重症化を予防するため、働く世代を対象とした普及啓発や未受診者への対策が重要である。

項目	指標	計画策定時の値	中間評価時の値	目標	増減 (現況値-策定時の値)	計画策定時の値の出典	中間評価時の値の出典	全 国						
								計画策定時の値	年次	中間評価時の値	年次	目標	年次	
がんによる死亡率の減少	75歳未満のがん年齢調整死亡率（人口10万対）	92.6	85.9	81.2	-6.7	平成23年人口動態統計	平成28年人口動態統計	84.3	22	78.0	27	73.9	27	
循環器疾患による死亡率の減少	脳血管疾患の年齢調整死亡率（人口10万対）	男性	41.7	35.7	35.1	-6.0	平成23年人口動態統計	平成28年人口動態統計	49.5	22	37.8	27	41.6	34
		女性	21.6	18.9	19.8	-2.7			26.9	22	21.0	27	24.7	34
	虚血性心疾患の年齢調整死亡率（人口10万対）	男性	26.7	19.7	23	-7.0	平成23年人口動態統計	平成28年人口動態統計	36.9	22	31.3	27	31.8	34
		女性	8.9	8.4	8	-0.5			15.3	22	11.7	27	13.7	34
	メタボリックシンドローム該当者および予備群の割合	25.2%	24.1%	減らす	-1.1	平成23年度札幌市国民健康保険特定健康診査	平成28年度札幌市国民健康保険特定健康診査	-	-	-	-	-	-	
	過去1年間に検診で高血圧症（血圧が高い）と指摘を受けた人の割合	男性	45.8%	38.7%	37%	-7.1	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	-	-	-	-	-	-
		女性	41.9%	33.6%	32%	-8.3			-	-	-	-	-	-
	過去1年間に検診で血中の脂質異常と指摘を受けた人の割合	男性	59.4%	58.2%	51%	-1.2	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	-	-	-	-	-	-
		女性	69.6%	73.7%	60%	4.1			-	-	-	-	-	-
	過去1年間に検診で糖尿病（血糖値が高い）と指摘を受けた人の割合	男性	17.5%	21.4%	11.5%	3.9	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	-	-	-	-	-	-
女性		11.1%	10.6%	5.5%	-0.5	-			-	-	-	-	-	

【ソーシャルキャピタル（社会のつながり）に関する成果指標】

%は小数点第2位を四捨五入

目標値に向かって推移

変化なし（±1.0未満）

目標値から遠ざかっている

<現状>

・お互い助け合っていると思う市民の割合、地域活動に参加している60歳以上の人の割合はともに減少しているが、自分から積極的に外出すると回答した人の割合は増加している。

<課題>

・地域のつながりの強化だけでなく、高齢になっても就労や趣味活動などで社会のつながりを持てる環境の整備が必要である。

項目	指標	計画策定時の値	中間評価時の値	目標	増減 (現況値-策定時の値)	計画策定時の値の出典	中間評価時の値の出典	全国						
								計画策定時の値	年次	中間評価時の値	年次	目標	年次	
お互いに助け合っていると思う市民の増加	お互いに助け合っていると思う市民の割合	42.1%	35.2%	65%	-6.9	平成24年健康日本21（第二次）	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	45.7%	19	-	-	65%	34	
地域活動等に参加している60歳以上の人の増加	地域活動等に参加している60歳以上の人の割合	男性	37.9%	34.3%	46%	-3.6	平成24年健康づくりに関する市民意識調査	平成29年健康づくりに関する市民意識調査	64.0%	20	62.0%	25	80%	34
		女性	42.3%	41.3%	50%	-1.0			55.1%	20	60.2%	25	80%	34